

2022年度
スローガン

おも 念いを繋ぎ 輝く南長野の起点となろう

2022年度 外報紙



9月例会

9月19日(月)祝・9月25日(日)

J A グリーン長野グリーンパレス

ナガノSDGsミライ会議

多文化共生社会を創ろう！

企画担当 ■ "Social Affair"s委員会

二〇二二年九月一九日(月)、二〇二二年九月二五日(日)の二日間にわたり、J A グリーン長野グリーンパレスにて、九月例会「ナガノSDGsミライ会議」多文化共生社会を創ろう！を開催しました。

日本の外国人定住者の数は年々増加しています。同時に、日本人の人口は減少しており、今後の我が国の維持向上・活性化は日本人と外国人が共生しながら行っていくことが求められます。

しかし現状日本は外国人住民に關して、コミュニケーション不足、地域での孤立、ルールの伝達不足などの問題を抱えています。今回の例会は、長野市、特に南長野地域での外国人住民との共生について考える必要があると考え、実施されました。



一日目は長野県の多文化共生推進指針策定委員会のお二方を講師にお招きし、多文化共生という言葉の意味から、長野市の多文化共生の現状と、未来の展望について講演頂き、二日目に、その内容を受けてのグループワークが行われました。外国人の方もご参加いただき、参加者の方に地域での暮らしについてお話しただけでした。



委員長所感

山岸 晃

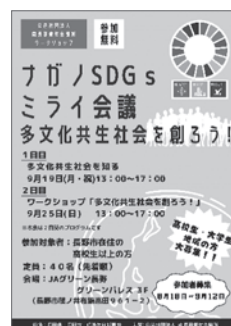
長野県は、全国調査で移住したい県No.1に何度も選ばれています。長野市はインバウンド需要も高く、外国人も多く観光に訪れます。一方で、年々人口は減っていて、一時期は四〇万人に届こうかという人口も、今では三九万人を切り、そのうち約半数が六五歳以上です。市外、県外への転出は一八歳から二四歳にかけて最も多く、全国的な人口減少も相まって、このままでは人口は減る一方だと予想されます。

多文化共生は、その補填のために外国人に移住してもらう、という考え方ではありません。外からの文化を積極的に受け入れ、今までの価値観と異なる価値観を融合させて、新しい価値観を地域の中で共に作り上げていく——そんな考え方です。

今回の例会は、長野市でのその端緒となるべく、長年にわたり全国的に多文化共生について研究・活動しているお二方をお呼びして、ご講演をいただくと共に、「どうすれば、多文化共生を南長野地域で実現できるか」というグループワークについて、アドバイザリーになっていただきました。

この例会の少し前に、日本政府が外国人材を積極的に受け入れていくという表明をしたこともあり、メディアにもご興味を持っていただき、信濃毎日新聞では二〇日と二六日の二日間、第一回・第二回の日程を取材していただきました。

この例会がただちに地域の活性化にはつながりませんが、これをきっかけに、参加者の皆さんに少しでも地域活性化のヒントを持って帰っていただけたら、嬉しいですね。



10月例会

南長野ウォーク〜篠ノ井探訪〜

企画担当 ■次代の地域創造育成委員会■

10月23日(日)

アスベースしののい
中央パーキング

二〇二二年一〇月二三

日(日)、アスベースしののい中央パーキングにおいて、一〇月例会「南長野ウォーク〜篠ノ井探訪〜」を開催致しました。

今回は長野地域居住の三二人が参加し、篠ノ井地域のことを深く知って頂くことを目的として、篠ノ井歴史の会の方々に御協力を得ながら、歴史的名所をウォーキングで巡る企画を致しました。

将来この地で南長野地域の住民となる子どもたちや、長年この地域に住まわれている方に対して、この地域の歴史を深く知って頂くことができました。



委員長所感

榎原 剛

当初の計画段階では、南長野地域をウォーキングしながら街並みを見て、景色や訪れた場所に愛着を持って頂き、将来に渡り長く住み続けて頂けるよう企画した事業でした。

南長野地域は歴史的な史跡や建造物が数多くあり、とりわけ多くの史跡がある篠ノ井地域の歴史にクローズアップをすることとなりました。私自身の経験ですが、生まれ育った街並みを歩いた記憶というのは今でも鮮明に残っています。私はこの地に移住してきたばかりですので、知らない場所が多く、今回の事業は「新しく住まれる方も対象にしてみよう」と計画を立てました。

現役メンバーの中では「南長野ってこんなに良い所があったんだ。」「知らない人たちにも教えたいよね。」という声が出たとき、長年この地域に住んでいても知らない場所は多くあることがわかり、事業をやったよかったと感じました。

最後になりますが、私たちの事業に多大な御協力をしてくださった先輩諸兄姉、篠ノ井歴史の会の方々に改めて御礼を申し上げます。



委員会事業

「南長野イイとマ」マップ」作成事業

10月17日(月)

長野商工会議所

篠ノ井支部 二階大会議室

担当 ■次代の地域創造育成委員会■

二〇二二年一

〇月一七日(月)、

長野商工会議所

篠ノ井支部

二階大会議室に

において、一〇月

委員会事業「南

長野イイとこ

マップ」作成の

ためミーティン

グを開催致しま

した。

一〇月例会では篠ノ井地域の歴史的名所をクローズアップした事業を行いました。南長野地域には他にも数多くの歴史的な名所や観光名所があります。地域の方や観光客の方に広く知らせたいという思いから、おすすめポイントをJCメンバーで厳選しました。

一二月以降からの配布となりましたが、是非一度手に取って頂き、名所を訪れて頂けたらと思います。



委員長所感

榎原 剛

一〇月例会の派生事業として、南長野地域の観光マップをオリジナルで作成しました。

長野市全体では数多くの観光マップがありますが、篠ノ井地域を主とした観光マップはあまり見かけることがありませんでした。そこで私たちが考えたオリジナルのマップを作成してみないかと委員メンバーに提案したところ、是非作ってみようとの意見が多数出たため今回の委員会事業を行いました。

宮尾理事長の「地域住民と共有、活用し、新たな価値を創出すること」「将来に渡りまちに愛着を持つ人が住み続けること」との言葉から、南長野の地域資源を積極的に発信し、年齢を問わず幅広い方々に魅力を伝えたいと考えたことがマップという形となったとき、少しでも地域活性化の一助になったのではないかと思います。

最後になりますが、マップ作製に協力して頂いた現役メンバーにはこの場をお借りしまして改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

ワールドフェスタin長野「二〇二二」へ参加

11月3日(木)

ながの表参道セントラルスクウェア

担当 ■ "Social Affair"委員会

二〇二二年十一月三日

休、長野市観光課インバウンド・国際室主催の「ワールドフェスタin長野二〇二二」に参加して参りました。本来は七月に行われる筈のイベントでしたが、コロナ禍によって延期となっていました。当会議所は、ブース展示として長年行ってきた西大邸青年会議所との交流の中で送っていたいた記念品の展示と、韓国の伝統的な遊びである投壺の体験コーナーを用意しました。投壺とは、輪投げとダーツを掛け合わせたような遊びで、五つの口のある壺に、矢じりを丸めた矢を投げ入れる遊びですが、子ども達に大人気で、何度も遊びに来ては楽しんでいました。記念品も、家族連れの方がよくご覧になってい



山岸 晃

ワールドフェスタは、長野市主催のイベントで、私たちはブースの出展をしています。西大邸青年会議所との交流の成果を発表する場でもあり、広報としての意味もあります。

今回の展示のメイン企画は、やはり投壺でした。投壺は、子どもの人気も然ることながら、七〇代のご高齢の方にも訪れていただき、体験をしていただけました。来場者の国籍も様々で、聞いただけでも日本人、韓国人、イギリス人、アメリカ人、中国人の方がご参加いただけました。もちろんそれだけでなく、参加者は展示品の方にも誘導し、一つ一つの解説にも耳を傾けていただくことが出来ました。特に親子連れの方が熱心に聞いていただき、新羅の王冠や、百済の王冠飾りのレプリカなどについては様々な人からご質問をいただきました。

今回、交流記念品を飾るにあたって、その記念品がどういった由来のものかを調べ、解説文を書かせていただいたのですが、西大邸青年会議所の方でそういったものを多く選んでいただいたのかもしれませんが、実は結構日本と関わりのある記念品が多くあり、そういったところの解説もご来場者にはうけていました。次年度はどう関わっていくのかわかりませんが、西大邸青年会議所との交流に対する意識が高まるものもあると思うので、是非続けていっていただきたいです。

11月例会

作ってつながる！木育ワークショップ

11月13日(日)

南長野運動公園

企画担当 ■ 拡大室

二〇二二年十一月三日(日)

に、十一月例会「作ってつながる！木育ワークショップ」を開催しました。これは、お子さんのいる二十代から四十代の会員候補者をターゲットにした事業で、候補者との交流を通してJCの活動を知ってもらい、入会につなげたい。という発想から開催された事業です。長野県木材青壮年団体連合会からお越しくださった講師のお二人の指導のもと、木育を通じて、子ども達には自然の資材を使ってモノを組み立てる楽しさと学びを、親御さんには南長野青年会議所の事業への興味を感じてもらおうことを目的として事業を企画しました。

今回作ったのは椅子と机。参加した子どもたちは、思い思いに金槌を振るい、ものづくりを楽しんでいました。



室長所感

平山 亮太

十一月一日に十一月例会「作ってつながる！木育ワークショップ」を開催しました。

会員拡大系の本事業は、候補者となる方に親子で参加していただき、子どもには木育を通じて信州の資材を使ってモノを組み立てる楽しさを学び、親御さんには南長野青年会議所が日頃どのような事業を行っているか興味を感じてもらおうことを目的として企画しました。

当日は長野県木材青壮年団体連合会のご協力のもと、二二組の親子が工作キットの作成に取り掛かりました。ミニ机とミニ椅子どちらも作りがたえがあり、子ども達もさることながら、親御さんの方が真剣に打ち込んでいたように見られました。組みあがった机と椅子は参加者の皆さんに持ち帰っていただきましたが、「自宅ですべてです」と後日連絡もいただくなど、親子共に楽しんで頂けたように感じました。

結果としては、その場での入会には至らなかったですが、事業を実際に参加していただいたことは継続的なアプローチに繋がれると感じました。本年度のみならず次年度へと引き続き拡大に邁進していく所存です。



12月14日(木)

長野商工会議所
篠ノ井支所
二階大会議室

第三回通常総会

担当 ■ 事務局 ■

二〇二二年一月一日(木)、長野商工会議所篠ノ井支所にて第三回通常総会を開催いたしました。

次年度各委員会の事業計画をはじめとして三議案が審議され、全会一致で無事通過しました。その後、二〇二二年役員より二〇二三年度役員へのバッジの継承、プレジデント・シリートの継承を行いました。月をまたげば、二〇二三年が始まります。それと共に、平山次年度理事長の下で新たな南長野青年会議所の歴史が刻まれていくこととなります。

次年度も南長野青年会議所をよりしく願います。



二〇二二年御礼

昨年、公益社団法人南長野青年会議所は創立六〇周年・認承五〇周年という節目の年を迎えさせていただきました。今年度は、新たな歴史への一歩目として創立当初から紡がれてきた先輩諸兄の^{おも}念い、地域に住まう人々の^{おも}念い、南長野青年会議所の^{おも}念いを繋ぎ合わせ、南長野地域に住まう人々と地域が未来に希望を持ち、輝きを放てるような南長野にすべく私達南長野青年会議所が率先して運動を起こしていこうという願いと決意を持ち、「^{おも}念いを繋ぎ 輝く南長野の起点となろう」というスローガンを掲げ一年間活動させていただきました。

今年の新型コロナウイルス感染症は、年初から感染拡大した第六波、七月頃を中心とした第七波、十一月頃から続いている第八波と、依然増減を繰り返し、対応を迫られる場面も多々ありました。特に、一月下旬に開催予定をしていた二〇二二年第一回通常総会は、直前にオンライン配信への変更、また大懇親会を中止とさせていただきます。関係各所の御来賓の皆様、シニア会会員の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。この場をお借りし、改めてお詫言申し上げます。しかしながら、二〇二二年は行政や社会の中でコロナ禍での事業開催可否の基準等の制定や感染された方への理解、又、南長野青年会議所としても新型コロナウイルスへの準備等、新型コロナウイルス感染症への対応の仕方がより醸成された一年になったのではないかと感じております。

今年度、南長野青年会議所の組織として、会員拡大・会員の資質向上を担当する「会員拡大室」、青少年育成・社会開発を目的とした「次代の地域創造育成委員会」、南長野青年会議所の総務・国際交流事業を担当とする「"Social Affair"委員会」の三つの一室二委員会

という体制で活動させていただきました。会員拡大室には近年減少傾向である会員数を増やすべく、例会や候補者周りを通じ、全体事業である会員拡大活動を率先して活動していただきました。入会された会員は三名に留まっていまいましたが、有力な候補者をピックアップ出来、次年度以降につながる情報を得る事が出来ました。青少年事業として、五月に三年ぶりの開催となったわんぱく相撲長野場所の開催、七月例会では「お宝取り合ひ鬼ごっこ〜みんなで考え、みんなで協力〜」を開催し、オリジナル競技を通じ、子ども達の自主性の成長を促す事業を開催しました。両事業を通じ、未来を担う子ども達の健全育成に寄与出来たと感じております。社会開発事業では南長野青年会議所の活動圏域内にある篠ノ井地区を対象に地域の歴史や魅力を発見してもらおうと「南長野ウォーク」篠ノ井探訪」を開催させていただきました。また、国際交流事業では、六月に姉妹締結をしているJCI KOREA西大邱とのネット交流会を開催いたしました。三年に渡り現地交流が実現できない中でも変わらない友好関係を築けました。又、九月に市民の皆様と多文化共生社会を学ぶため、「ナガノSDGsミライ会議 多文化共生社会を創ろう!」を実施致しました。地域の方や外国籍の方と話し合い、今後増えていくであろう外国籍の方との地域共生の在り方を考える機会を設ける事ができました。

一年間を通じ、コロナ禍の中でどのように事業を展開し、地域に私たちの想いを伝播していくか、常に悩みながらの事業展開となりましたが、委員長を中心に全メンバーがそれぞれの事業に向き合い、知恵を出し合い、汗をかき、リスクを恐れず挑戦して参りました。その中で多くの学びと発見がありました。それらの経験を、個人として、又、団体として今後の青年会議所運動に活かして地域に還元して、「明るい豊かな社会」の実現に向け運動して参ります。



理事長 宮尾 祐介

編集後記

二〇二二年も残すところ僅かとなりました。今年一年を振り返れば様々なことがありました。新型コロナウイルス感染症リスクは未だ解消されず、様々な業種で生産調整や規模縮小が起きている中、ウクライナとロシアの戦争が始まり、化石燃料の価格が高騰して物価がぐんと上がりました。そこに追い打ちをかけてように、アメリカが自国通貨を守るために利上げを敢行し、歴史的な円安を記録。日本は今空前の不景気に喘いでいます。

今まで通りが通用しなくなりつつある世の中で、今年度南長野青年会議所は二委員会一室制で「^{おも}念いを繋ぎ 輝く南長野の起点となろう」をスローガンに、この地域の魅力を伝えたり、新たな魅力を創り出すための事業を形成して参りました。

二〇二三年度も平山次年度理事長を先頭に、私たち(公社)南長野青年会議所は、希望をもたらし変革の起点として邁進してまいります。そして来年度も私たちは、この「かがり火」を通して(公社)南長野青年会議所の活動を広報して参ります。これからも応援をいただきたいと思います。

一年間ありがとうございました。

"Social Affair"s委員会 委員長 山岸 晃



公益社団法人 南長野青年会議所

〒388-8007 長野県長野市篠ノ井布施高田895-1

TEL : 026-292-2310 FAX : 026-293-5709

E-mail : minamimaganojc@mtg.biglobe.ne.jp

発行元 : "Social Affair"s委員会

編集長 : 山岸 晃

印刷所 : 有限会社サクセス

ホームページ更新中!
是非ご覧下さい!!

南長野青年会議所

検索

かがり火のバックナンバーはホームページでご覧ください。